


2021 年度 研究サマリー

研究会名称	腎泌尿器癌研究会	
代表者所属	東京女子医科大学泌尿器科	
代表者氏名	高木 敏男	
研究方法・結果	<p>本研究会は、腎不全・腎泌尿器科疾患において、より高度な内容の診療、研究を行い、同時に将来を担う世界で活躍できる人材の育成を行うことを目的としている。全国及び諸外国から当科での研修、研究を希望する多数の医師やメディカルスタッフに対し、教育・研究指導を行っており、その中でも腎移植に関しては、多くの知見を国内のみならず世界に向けて、継続的に発信している。</p> <p>これまでの腎移植の実態は、主として欧米より報告される無作為比較試験や観察研究からもたらされるものであり、日本人腎移植患者における実態や新規開発された免疫抑制薬がどのように日本人腎移植患者に影響を与えるかは明らかではなかった。そのため、2015年より多施設共同観察研究としてJACK (Japan Academic Consortium of Kidney Transplantation) を開始し、日本人腎移植患者のリアルワールドデータを集積解析することで、その臨床成績の評価を行ってきた。2018年4月より、このJACKデータベースへのデータ積み上げとして前向き観察研究JACK-IIに発展させている。</p> <p>このJACK cohortを用いて、2021年度も国内・国外学会でその成果を発表し、3編の英文紙を公表した。</p> <p>これまでの検討により日本人腎移植患者の診療実態が明らかになりつつあり、実臨床へのフィードバックを行うことで、腎移植長期生着を目指した診療内容への改善につながることを期待される。今後も、この付随研究としての種々の研究を拡大していく予定である。</p>	
研究成果 (論文、学会発表、雑誌掲載等)	<ol style="list-style-type: none"> 1. Influence of a low-dose tacrolimus protocol on the appearance of de novo donor-specific antibodies during 7 years of follow-up after renal transplantation. Unagami K, et al. <i>ephrol Dial Transplant</i>. 2021 May 27;36(6):1120-1129. doi: 10.1093/ndt/gfaa258. 2. Monoclonal and polyclonal immunoglobulin G deposits on tubular basement membranes of native and pretransplant kidneys: A retrospective study. Sawada A, et al. <i>Pathol Int</i>. 2021 Jun;71(6):406-414. doi: 10.1111/pin.13092. 3. Desensitization Regimen Consisting of High-Dose Intravenous Immunoglobulin, Plasmapheresis, and Rituximab (an Anti-CD20 Antibody), Without Eculizumab and/or Bortezomib, in 41 Highly Sensitized Kidney Transplant Recipients. Ishida H, et al. <i>Exp Clin Transplant</i>. 2021 Oct;19(10):1032-1040. doi: 10.6002/ect.2021.0234. 	